

歩く国際協力「Walk in Her Shoes2026」企画書

“彼女”たちの身になって歩く、シンプルで健康的な国際協力

持続可能な開発目標 SDG6 では、2030 年までに安全な飲料水、そして衛生サービスへの普遍的なアクセスを目標に掲げていますが、その達成が危ぶまれています。世界の 4 人に 1 人が、依然として安全な飲料水にアクセスできていません。この現実、子どもたち（特に女子）の健康、教育、将来にも暗い影を落としています。途上国では、主に女性と女子が水汲みを担うことが多く、サハラ以南のアフリカや中央アジア、南アジアの多くの国で、1 日 30 分以上を水の収集に費やしています。これにより、彼女たちは、教育や就労の機会を奪われると同時に、肉体的・精神的な負担も抱えています。

歩く国際協力「Walk in Her Shoes」は、途上国の女性や女子が日々、水汲みや薪拾いのために歩いている 8,000 歩（約 6km）の道のりを歩くことで、途上国の人々が直面する「現実」「貧困」を体感し、新たな行動へのきっかけとすることを目標に、2011 年から始まった CARE のグローバルキャンペーンです。日本でも、参加型の啓発ならびにファンドレイジングを目的として毎年「国際女性デー」から展開し、2026 年 3 月から始まるキャンペーンは、15 回目の開催となります。

◆キャンペーン期間

2026 年 3 月 8 日（国際女性デー）～5 月 31 日までの約 3 ヶ月間

◆申込期間

※ウォーキング・パートナーによるお申込は、原則 1 次募集での受付を推奨

<オンライン> 1 次募集 2025 年 12 月 10 日（水）13 時～2026 年 2 月 12 日（木）23:59

2 次募集 2026 年 2 月 13 日（金）10 時～4 月 23 日（木）23:59

<オフライン・イベント> 2026 年 2 月 1 日（日）～3 月 11 日（水） ※法人一括申込

◆エントリー費および寄付金

※ウォーキング・パートナー特別価格（一般参加費は 3,500 円）

<オンライン>	社員様（初回）	3,000 円
	社員様（リピーター）	2,000 円
	ご家族・知人等	2,000 円（社員様自身がリピーターか否かは問いません）
	学生（大学生以下）	1,000 円
<オフライン・イベント>		2,000 円（高校生以下無料）
<T シャツ別売>		個別発送 2,800 円、一括発送 2,500 円（送料/税込み）
<任意のご寄付>		参加申込み時に寄付金も 1 口 1,000 円で同時受付

◆寄付金の使途

皆さまからいただいたキャンペーンへのエントリー費・寄付金は、キャンペーンに関わる諸経費を除き、当財団が東ティモールで実施する「遠隔集落における生業と食の改善事業」を通じて、農業や生活における水へのアクセス改善のために大切に使用させていただきます。



◆参加方法

オンライン参加「好きな時間、場所で歩く」

任意の時間、場所で、途上国で女性や女子が水汲みのために歩く 1 日当たりの平均歩数である 8,000～10,000 歩を目安に歩きます。そして、以下の (a)または(b)の方法で歩数をご報告いただきます。

どちらの方法でも、参加者本人の歩数ほか、法人としてチーム全体の歩数も、ランキング形式でご確認いただけます。

※特別協賛企業の協力により、歩数に応じたマッチング寄付企画を実施予定（昨年度実績：500 歩 1 円）

(a)ウェブからの手動入力：

参加者毎のアカウントを発行。都度、報告ページにログインの上、手動で歩数を登録いただきます。

(b)歩数計アプリの自動連携：

歩数計アプリ「ALKOO」をダウンロードし、指定の企業コードを登録。歩数が即時自動連携されます。

◆その他の参加方法

1) チャリティウォークイベントに参加

約 6km のコースをご自身のペースで歩きながら、途上国の女性の貧困や水に係る課題、そして CARE の活動などについてのクイズやアクティビティなどを各ポイントでお楽しみいただきます。



イベント名： 歩く国際協力 Walk in Her Shoes 2026
「世界水の日」チャリティウォーク
開催日： 2026 年 3 月 22 日（日）
参加費： 2,000 円（高校生以下無料）
定員： 120 名程度（職員・ボランティア含め最大 150 人）
コース： 住友生命「Vitality」プラザ（銀座 Flagship 店）を拠点にしたコース（予定）

2) 自社イベントの実施



例えば、海岸清掃ウォークや地元の水源巡りなど、キャンペーンの主旨への理解を深め、広めるために、社員を対象とするイベントを自主開催いただきます。イベント形態や寄付額等是不問です。

今年から、「Walk in Her Shoes2026 in ●●」などの名称もご利用いただけます。

3) SNS で参加

CARE の「C」または「水」に関わる写真を撮影し、「#（ハッシュタグ）歩く国際協力 2026」を付けて、フェイスブック（FB）、エックス（X）、インスタグラム（IG）で投稿いただきます。キャンペーンの周知とともに、写真投稿枚数に応じた寄付企画を実施しチャリティの機会を拡げます。

◆賞の設定

WiHS 月間歩数賞、フォトジェニック賞、オフライン・イベントでの参加賞など各賞をご用意しています。

◆企業の皆さまのご支援、ご参加方法

以下から、1つまたは複数のご支援形態をお選びいただけます。また、すべてのご支援形態において、ウェブサイトおよびチラシ等で社名を掲載させていただきます。

※公益財団法人である当財団へのご寄付（協賛金、エントリー費を含む）は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金算入をすることができます。

	名称	ご支援内容	貴社のメリット（例）
1	ウォーキング・パートナー	社員参加促進 （目安となる目標は50人以上）	・当財団ウェブサイト・SNSで、社内の取組をご紹介 ・参加社員の皆さまには、定期配信メール配信 ・社内イベントでの当財団職員による特別活動報告
2	特別協賛	協賛金提供 （30万円以上）	・ご希望に応じ、キャンペーンTシャツに貴社ロゴをプリント ・ウェブサイト掲載のロゴも大き目に
3	協賛	協賛金提供 （1口10万円～30万未満）	・ご希望に応じ、キャンペーンTシャツに貴社ロゴをプリント
4	協力	商品・サービス提供 or コース・マーケティング	・貴社商品・サービスの広報・マーケティング、ブランド価値向上
5	後援	広報協力	・貴社の広報、ブランド価値向上

（参考）昨年度法人参加実績

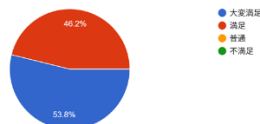
▼参加法人数（延べ 62 法人）

		2025年
特別協賛	協賛金（30万以上）	10
協賛	協賛金（30万未満）	3
協力	物品サービス提供	9
後援	広報支援	18
ウォーキング・パートナー	社員参加促進	22

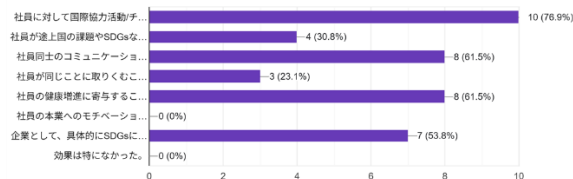
▼キャンペーン後アンケート結果（対象：ウォーキング・パートナー法人ご担当者）

対象者： WPご担当者様(回答数:13)
実施期間： 2025/6/1-6/12
実施方法： Google form

1. WIHS2025についての全体的な満足度を教えてください。
13件の回答



2. WIHS2025への参加を通じて、感じられた効果はありましたか？（複数選択可）
13件の回答



（問2、選択肢）

- ・社員に対して国際協力活動/チャリティへの参加の機会を提供できた。
- ・社員が途上国の課題やSDGsなどに対する理解を深める機会を提供できた。
- ・社員同士のコミュニケーション促進につながった。
- ・社員が同じことに取りくむことで、一体感や連帯の醸成につながった。
- ・社員の健康増進に寄与することができた。
- ・社員の本業へのモチベーションを高める機会につながった。
- ・企業として、具体的にSDGsに貢献できる活動に参加できた。
- ・効果は特になかった。

【参考情報】

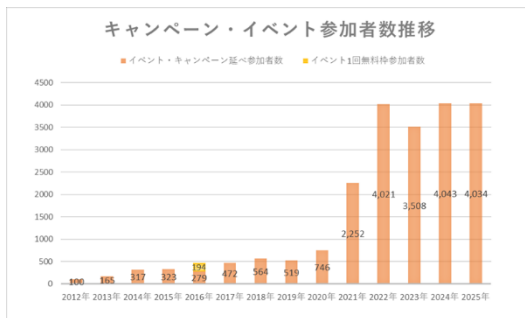
■歩く国際協力「Walk in Her Shoes2025（昨年度）」キャンペーンサイト：

https://www.careintjp.org/walk_in_her_shoes/index.html

■歩く国際協力「Walk in Her Shoes2025（昨年度）」実績：

※詳細のキャンペーン報告書はこちらからご覧いただけます。

https://www.careintjp.org/walk_in_her_shoes/info/report_2025.html

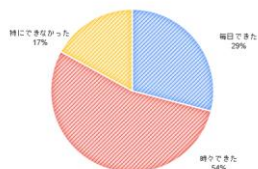


		2025年
収入	物品協賛 寄付相当額	¥714,302
	参加費による収入	¥8,453,600
	自主企画+その他寄付	¥167,032
	企業協賛金	¥4,900,000
	収入合計（物品協賛除く）	¥13,520,632
支出	支出合計	¥3,051,468
収支差額（物品提供除く）		¥10,469,164

アンケート結果(キャンペーンの啓発効果)

一般参加者とPeatix経由参加者数【819人】 回答者数【60人】 アンケート回収率【7.3%】

本キャンペーンを通じて、水汲みに行かなければならない「彼女の身になって歩く」を意識することはできましたか？



「Walk in Her Shoes 2025」をきっかけに、国際協力NGO「CARE」について理解は深まりましたか？



■主催団体：公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン：



1945 年、第二次世界大戦後のヨーロッパを支援するために、アメリカの 22 の団体が協力して緊急支援物資「CARE パッケージ（ケア物資）」を送ったのが、CARE の始まりです。1948 年から 8 年間にわたり、1,000 万人の日本人も、CARE からの支援物資を受け取りました。そして、1987 年、戦後の支援への「恩返し」の想いで設立されたのが当財団です。

現在は、世界 120 ヶ国以上で人道支援活動を行う国際 NGO ケア・インターナショナルの一員として、紛争下および災害時の緊急・復興支援に加えて、最も弱い立場に置かれた女性や女の子たちの自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。今年、CARE は、創立 80 周年を迎えます。

以上